

科目名	演劇史					単位	2.0
担当教員	小林 かおり						
授業形態	講義	開講期間	後期	配当年次	1	授業番号	4111

●授業のテーマ
西洋演劇史 1

●到達目標
西洋演劇の人間の描き方の変遷を追い、個人と運命・神・社会との関係を考理解する。

●学習内容(授業概要)

古代ギリシャ以来長い歴史を持つヨーロッパ演劇の流れを西洋の歴史と織り交ぜながら視覚教材を使って追う。とくに、人間の描かれ方を個人と運命・神・社会との関係から考察していく。

- ①ギリシャ悲劇——神の存在、荒削りな個人の感情
- ②中世演劇——絶対的な神、操られる人間、類型化された人間
- ③ルネサンス——神と個人の葛藤、ハムレットの悩み、マクベスの野心と魔女の予言
- ④近代リアリズム劇——神の不在、個人のドラマ、もしくは個人間のドラマ—対話劇、会話劇（映画、テレビ・ドラマ）

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

1. イントロダクション
2. ギリシャの演劇—『オイディプス王』
3. ギリシャの演劇—『オイディプス王』
4. ギリシャの演劇—『メディア』
5. ギリシャの演劇—『メディア』
6. 中世の演劇
7. ルネサンスの演劇—シェイクスピアの史劇『タイタス・アンドロニカス』
8. ルネサンスの演劇—シェイクスピアの史劇『タイタス・アンドロニカス』
9. ルネサンスの演劇—シェイクスピアの悲劇『メタル・マクベス』
10. ルネサンスの演劇—シェイクスピアの悲劇『メタル・マクベス』
11. ルネサンスの演劇—シェイクスピアの悲劇『ハムレット』
12. ルネサンスの演劇—シェイクスピアの悲劇『ハムレット』
13. 19世紀の演劇—チャーホフ『かもめ』
14. 19世紀の演劇—チャーホフ『かもめ』
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

毎回授業前に戯曲を読んでくること。授業後は、授業中に見た演劇の感想を書くこと（約800字）。

●成績評価方法・基準

出席(30%)、レポート(40%)、演劇の感想文(30%)。

●テキスト（必携）
プリント

●参考文献／その他
授業中に指示。

●履修上の注意
特になし。